



vol.13 スエコザサが繋ぐ仙台と高知特集

*2026年5月発行 *企画・制作・発行・デザイン/ 朝ドラ「らんまん」顕彰会
〒789-1201 高知県高岡郡佐川町奥の土居 市川方 kawazumakeruna@bell.ocn.ne.jp



「壽衛子笹 恋歌」を披露する高橋奈緒さん(右のQRコードからYouTubeをご覧ください)

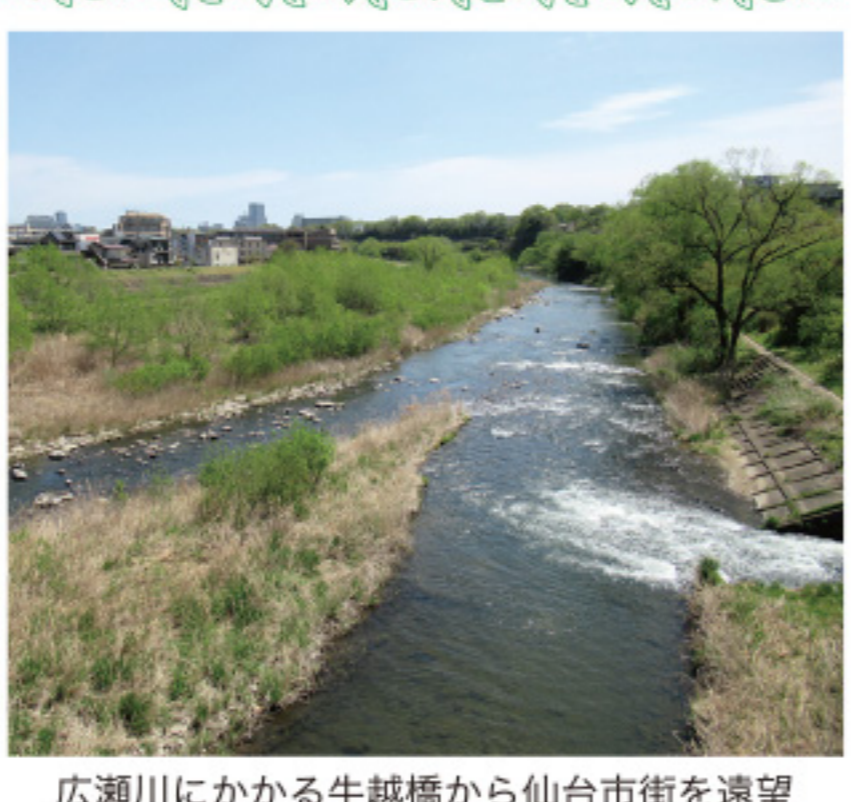
開かれています。スエコザサ 母の名を呼ぶ幼き日の物語り スエコザサ 永遠に変わらぬ紡ぎゆく 緑の笹

今年には牧野富太郎博士がスエコザサを発見して100年目となります。昭和2年(1926)12月1日、牧野博士は当時東北大学助教だった岡田要之助氏の案内で仙台市三居沢に植物採集。その時アズマザサに似た新種の笹を見つけ、翌年、妻壽衛にささげる意味を込めてスエコザサ(学名 Sasasuwekoana Makino)と命名しました。

スエコザサ発見100周年記念曲「壽衛子笹 恋歌」完成

7月5日〜7月20日

スエコザサ 君の名を呼ぶ遠き日の物語り スエコザサ 今も変わらぬ語り継ぐ 愛の笹



広瀬川にかかる牛越橋から仙台市街を遠望

この度は、仙台市野草園の『スエコザサ発見100周年記念イベント』の記念曲として「壽衛子笹 恋歌」を作詞作曲させて頂き誠にありがとうございます。

スエコザサ 今も変わらぬ語り継ぐ 愛の笹

1. 「スエコザサ 壽衛子笹」 壽衛の生涯・新種のササ・スエコザサとは。宮城県における分布・日本で見られる所・スエコザサを詠む、歌う・スエコザサでつくる。



新たな枝葉を出したスエコザサ (三居沢)

東北植物研究会の上野雄規氏(事務局)との朝ドラ「らんまん」を契機とした縁で、牧野博士の故郷・佐川町をはじめとした高知県各地の牧野博士顕彰活動を紹介できることになりました。ほんとに有難いですね。(市川浩司)

壽衛子笹記念イベント協会は以下のようにこの活動のサポーターを募集しています 読者の皆様、ご支援ご協力よろしくお願いたします

24日、25日はらんまんマルシェとして、植物・食べ物・手づくり雑貨等のお店が牧野公園に大集合。牧野公園はなもりC-LOVEは山野草販売やコケ玉作りワークショップを行いました。

24日は稲垣典年先生のガイドで、上町にある牧野博士生家周辺から牧野公園を散策しました。稲垣先生は平成26年2月に策定された「牧野公園整備計画」から始まった牧野公園リニューアル事業を振り返り、牧野博士ゆかりの山野草を含め約700種の植物が楽しめる牧野公園の今の姿に目を細めていました。

生誕164年 牧野富太郎博士生誕祭 於・佐川町(高知県)



演奏する坂野志麻さん



コケ玉作り体験



草あそび展(於・佐川文庫庫)



生誕祭ハースデイケーキ

私は牧野公園草花ガイドとして、東京からのお子さん連れの家族をご案内したのですが、「ふるさと納税で送られてきた佐川のトマトが美味しくて、その生産者(トマトハ

ウスナカムラ)も生誕祭に出店すると聞いて来ました。生産者に直接会えたこともうれし、こんな公園があるとは知らなかった。また来ます」と言っていただけでした。

作詞、作曲を手がけた高橋奈緒美さんは「壽衛子笹 恋歌」に対する思いを「牧野人」に寄せてくれましたのでご紹介いたします。

ウスナカムラ)も生誕祭に出店すると聞いて来ました。生産者に直接会えたこともうれし、こんな公園があるとは知らなかった。また来ます」と言っていただけでした。

生誕祭をきっかけに牧野ファンがまた増えたよううれしいですね。(市川浩司)

豊かな自然、明るい未来を、 サプライチェーン・ロジスティクスで

郵船ロジスティクスグループは、持続可能な未来へ向けて、地域の皆さまとともに歩みます https://www.yusen-logistics.com/jp_ja/



仙台と高知、「スエコザサ」が繋いでくれたふたつの楽曲の紙面コラボが実現！



今年1月、本紙編集長である市川浩司さんよりうれしいメッセージをいただきました。植物研究者であり、壽衛子笹記念イベント協力会の上野雄規氏から「壽衛子笹恋歌」感謝公開メッセージをいただきました。こちらに高知の「スエコザサ」も紹介されましたのでお知らせいたします。

「スエコザサ発見100周年記念曲『壽衛子笹恋歌』映像用写真を提供並びに撮影許可・協力をいただいた各園、各館、各社、各会関係者各位お世話になっております。この度、記念曲の映像作成にあたりまして、使用する写真についてご協力をいただきましてありがとうございます。お陰様で下記のように公開することができましたので、ご報告方々、お礼を申し上げます。2026年1月28日『01奈緒オリジナル曲集-YouTube』で検索しこれを開いて更に「壽衛子笹恋歌」で検索これから7月の記念展・記念の集いに向け、この曲にのせて準備活動を進めていきたいと思います。そして、先輩の「スエコザサ」に続いて長く歌い継がれ、語り継がれていくことを願っております」とのこと。

牧野富太郎生誕160年の記念に制作させていただいたCDを市川さんご紹介くださったお陰で、牧野富太郎博士がスエコザサを発見した地の方々が「スエコザサ」を聴いてくださり、音楽を通してこのような交流ができるなんて、本当に嬉しく思いました。牧野博士のふるさと高知でも、「壽衛子笹恋歌」を、是非！たくさんの方々に聴いていただきたいですね！

今回は、こちらのコンサート映像を、コラボ紙面掲載に選ばせていただきました。佐川町桜座開館25周年記念事業「咲き誇る花の音コンサート」第一部の記録より、2018年の1月、洗濯物を干しながら口ずさんだ1フレージが、5年後となる2023年9月24日、素晴らしい編曲、演奏により総仕上げがし、(編曲)二胡松居孝行さん、ギター(佐伯北斗さん)、歌(寿美玲子さん)、朗読(寿美華音さん)により、ふるさと佐川町桜座の舞台でスポットを浴びることができました。朝ドラ「らんまん」の音楽監督である阿部海太郎さんと、ギタリストの山下俊輔さんが叶えてくださった夢の風景。2018年に東京の練馬区にあるスエコザサの聖地「牧野記念庭園」に足を運ばな



壽衛子笹恋歌 スエコザサ発見100周年記念曲
<https://youtu.be/MmGKABkY0U?si=i88J0pu1CyAGsADJ>



2023.9.24 咲き誇る花の音コンサート 朗読 スエコザサ
https://youtu.be/YW5Z0hFatLM?si=NKBGcZ_J7aFVLUmI



太白区茂庭台のスエコザサ群落



今日は「らんまん」の曲でもちろん演奏させていただきますが、自分自身も作曲した曲も披露させていただきます。 (松田雅子)

探訪 牧野博士の歩いた道 大月町(高知県幡多郡) 博士のスケッチ画(明治18年作)の実景と対面！



牧野博士のスケッチ画 (1885年11月3日) 高知県立牧野植物園 提供



牧野博士のスケッチ画の実景 (2025年11月30日)

「土佐は自分の国だから方々行きましたが、幡多郡はずっと一巡しませんでした。花にも何にも珍しいものがあった、あんなもの初めて見た」と晩年の牧野博士が語る高知県西南部の幡多郡大月町で、昨年11月末「牧野富太郎の道歩く in 大月町」(主催・四万十かいどう推進協議会 大月支部)が開催されました。同町泊浦地区から地吉峠を越え、月光桜のある長沢地区に至る全長約6・2Km、高低差200m、所要時間5時間の散策のルートです。 博士は、明治18年(1885)11月3日、このルートにある泊浦の尾根沿いの山上から、南予方面、沖ノ島やその背後にうつすらと浮かぶ九州を遠望した風景をスケッチしています(写真)。その絵には「泊浦ノ山上ヨリ豫州ノ辺境ヲ望ム」と博士は記しています。 今回のウォーキングで初めてその現場に立ち、140年経った今でも博士のスケッチした風景と同様の素晴らしい景観が眼前にひろがる感激に浸ることができました。約20年間「牧野博士の歩いた道」の整備を提唱してきた稲垣典年先生、竹田恒夫先生からは、このスケッチ現場を発見するために、地元の方々二度、三度と探索し、やっとここがその地であることを確認できたと話してくれました。牧野博士の歩いた道の整備も一日してならずですね。 季節がこの散策ルートでは、スダジイの根に寄生して一面に群生するヤッコソウや照葉樹林の林床に赤いキノコのようにひょこり顔を出す寄生植物のツチトリモチが観察できました。また、ウバメガシの大木や普通のスキよりも大きな常緑のトキワスキ(カンスキ)とも出会えました。



稲垣先生が提唱する「郷土料理とセット」の牧野博士の歩いた道ウォーキングを実践する大月町商工会の皆様のおもてなしで、昼食は大月町の伝統的な郷土料理で、寒ブリの切り身を酢ミカンで締め、酢飯を挟んで握った「へら寿司」や他ではなかなか食べられる機会のない「トングロイワシ」の唐揚げ等々をいただきました。牧野博士も140年前にいただいたかもしれないですね。 牧野博士は19歳の明治14年(1881)、同18年(1885)の三度にわたり幡多地方で植物採集を行なっています。その写生と観察による実地を基本とする採集旅行が博士の鋭い観察眼を養い、植物分類学の基礎を築いていったのです。 「植」と「食」、そして素晴らしい景観に感動できる大月町の「牧野博士の歩いた道」散策コース、今度は月光桜の咲く春に歩こう。(市川浩司)



「牧野富太郎の道歩く」のお問合せは 四万十かいどう推進協議会大月支部(大月町商工会内)へ 電話0880(73)0135

稲垣典年先生(右)と四万十かいどう推進協議会大月支部の濱崎一洋支部長

スケッチ画の由来を説明する竹田恒夫氏